学園ニュース

富山大学

NO. 48

編集　学園ニュース編集委員会　発行　富山大学　　昭和60年6月20日

学内風景（その13）新緑（メインストリートを附属図書館へ向って）竹治正美

目　次

新入学生諸君を迎へて …… 教養部長　杉本新平 …… 2
学部長就任のご挨拶 …… 教育学部長　野村　昇 …… 3
新任教官紹介及びあいさつ …… 4
ナイロビの「日本アフリカ研究所」…… 人文学部助教授　赤阪　賢 …… 10
アメリカから帰って …… 教育学部助教授　渡辺　信 …… 11
日本の印象 …… 経済学部助教授　泉田栄一 …… 12
「東アジア地域の形成と展開」（人文）に関する経過報告 …… 人文学部教授　梶井　陟 …… 13
南極・みずほ基地での生活 …… 理学部助手　川田邦夫 …… 15
富山大学情報処理センターの紹介 …… 富山大学情報処理センター長　川井清保 …… 16
学部・教養部だより …… 18
学生部だより …… 19
保健管理センターだより …… 26

新入学生諸君を迎えて

教養部長　杉　本　新　平

今日ここに富山大学に入学された諸君に対して，私はまず心から“おめでとう”を申し上げたいと思います。ところで“おめでとう”と言うからには，諸君が大学に入られたということ，大学での勉学を今日から始めるということに，何らかの意義．よろこばしき意義があると私が考えていることを意味します。つまり私は，諸君が，今まで諸君が辿ってきた勉学生活とはちがった勉学生活を開始できることを，諸君と共によろこびたいわけです。それでは，いかなる点で大学における勉学生活は今までの勉学生活と異なるのか？
私はそれを，大学における勉学は“自由な”勉学である，という言葉で要約したい。そして，“自由な”勉学ということについてはさし当り次の２つの点が言えると思います。

一つには，大学における勉学は自発的な勉学だということです。他からあるいは上から強制されたのではない，自分の意志による，自分自身の内面的必然性からする勉学だということです。哲人スピノザは，『自己の本性の必然性のみによって存在し，自己自身のみによって行動に決定されるものは自由であると言われる』と言っていますが，私は“自由”という言葉をこれ以外の意味には解しませんし，この意味でのみ，大学での勉学は“自由な”それであると申すのです。逆説的に言えば，大学では諸君自身を除いては誰も諸君をいわゆる教育してはくれません。諸君自身を除いては誰も諸君に責任を持ってはくれません。では，教師は何をするのか？と諸君は問うかもしれません。答えはかんたんです。教師は諸君自身らと共に学ぶ者，共に研究する者です。大学には今までのようにクラス担任のようなものはありません。手取り足取り諸君を導いてくれる大人はいません。しかし自由な，つまり自発的な勉学に決意したすべての学生に，研究室の扉はつねに開かれている筈です。以上が第一点です。

二つには――これはもちろん第一の点と深く関連していますが――大学は，今までよりはるかに多くの自由な時間，諸君の自由になる時間が与えられている場です。今までのように宿題もありません――黙っていても諸君はやるだろうと思うからです。ひんぱんなテストもない――そんなことで諸君のシリを叩く必要を認めないからです。すべては諸君にまかされています。あの有名なプラトンは，ある対話篇の中で，せっかちに学ぼうとする人にむかってソクラテスに『われわれは暇のない奴隷なのか，それともゆっくりした暇があるのか，どちらなのだね？』と問わせています。そうです，私たちは暇のない奴隷ではない。この自由な閑暇を全く浪費してしまうか，あるいは意義あるものたらしめるかは，諸君に，私たちにまかされています。では授業は？と諸君は問うかもしれない。授業は，そこから諸君が諸君の自由な勉学のための刺戟を，示唆を受けとる場です。あるいはさまざまな人や事象が交差する四つ辻だと思えばよい。そこからどの道をとって進むかは，これまた諸君にまかされています。以上が第二点です。

これまで述べきたったところによって，大学での自由な勉学というものがどんなものか，あるいはどんなものであるべきかが，いくらか暗示できたかと思います。それは，すべてにおいて自分が自分に責任をもたねばならぬ故に，困難な道であります。他律ではなく自律の道であるが故に，困難な道であります。しかし困難な道であるが故に高貴な道であります。

以上私は，諸君が長い受験勉強から解放されて必ずや非常な解放感，あるいはいわゆる自由を感じているにちがいないと思うが故に，あえて一言，自由がいかに困難であるかを力説した次第です。この困難な道に踏み入るに当って諸君が勇気をもって，真実にそして深く大学生活を生きられることを希望いたします。

（60. 5. 15）

学部長就任のご挨拶

教育学部長　野　村　　昇

この度，教育学部長に選任されましたので，就任のご挨拶を申し上げます。

教育学部も前身校からの建学の精神を受け継ぎ，必要に応じて改革されて今日に至っています。世に教育百年の計といわれているのを大げさな表現のように感じたこともありました。しかし，日本の過去百十数年の歴史でみても，封建，武家政治から，民主，議会政治に変り，疾病と貧困と文字を知らないということが無くなったと言えますが，これには，義務教育の普及が重要な役割を演じてきており，当学部の前身校から数えて本年は百十二年目に当たりますから，当学部の前身校及び当学部の関係者も貢献されてきた訳であります。

今日の世界人類の快適生活の条件として，平尾博士は「良い医療，豊かな経済，良い教育，豊かな自然」を挙げておられると聞きましたが，私はこの四条件を，各人，各家庭，各社会及び各国がそれぞれ如何なる順番に，どのような手段で，どの程度まで満たそうとするのか，更にそれぞれの判断選択のための情報の質と量とその選択能力を所有し，発揮できるかどうかで個人，社会，国などの各運命が定まっていくのではないかと思います。

判断に必要な総括的な構想力と理解力，その対象資料となる情報の質と量の収集と解析の能力・技術，独創性，実践の情熱・意欲などは，家庭，学校，社会での教育によって育成されるのでありましょうが，殊に家庭と学校教育に負う割合が大きいものと思います。

近年の社会，国際社会の変容は極めて激しく，多くの領域において分離独立して細分化し，また一方では分化したものが別のものと結合して新しい分野を形成するといった，多様化と新しいdiscipline形成のような動きが続くことも予想されますが，これから後の百年間の予測は私などのよくする所ではございません。しかし乍ら，今後の百年を人類生存を条件として考える限りにおいては，「人間よ矯る勿れ」と自戒することから問題が始まると思うのです。

個人とか個別の家庭とか地域社会，さらにはその集積としての国家を考えてみても，未だに明日の命も，5年先の家計設計すらも，地震予知も国際事情の変動に伴う不況をも正確に知ることは出来ないのですが，この事実，不明である部分の多い事実を率直に見据えて，他の人も，他国も同様に平和と快適生活を願っているという前提で歩み寄り協力し合うのでなければ，今後の20年，30年の人類生存は暗いものとしてしか考えられないのではないか。不図，このような心配をすることがあります。

然し，朧げながら宇宙の創生とか地球や生命の誕生とか，素粒子や生命やガンのメカニズムについても次第に科学的解明がなされてきておりますし，その壮大さ，厳粛さが認識されるならば，「人間の矯り」は消えるのではないかとも愚考し，このように私は信じます。

教育学部は総合大学の一学部として「教育」についての学問研究と教育を行うところですが，教育とは人間形成のことだと思います。人間形成は種々の専門教科，科目によって深められますけれども，前述した人間の求めている快適生活の条件についての総合的構想力による判断も必要となり，これを養う人間的関心が不可欠となります。総合的構想力は広領域に亘っての専門的知識・技術への関心とその形成過程についての研究・教育を必要とするものと思います。

私どもの今おかれている立場で，将来予測をどこまでしなければならないかということを考えてみますと，学生諸君の今後3，40年間の教師生活とその指導を待っている児童，生徒の6，70年間の人生への希望と祈りを合わせますと百年という答えが得られます。

今後の百年間を予測し，教育百年のあり方を探り，より実りあるものとするために教育学部の将来構想が検討されねばならないのでしょう。先ずは，教官と学生，そして学生諸君の教育実践指導の場であり教官の実践研究の場であるとともに児童，生徒の育成の場でもある附属学校園を含めて研鑽を積み，質的向上を目指したいものと考えます。このためには，財政が極めて厳しい折とは言っても，教育学部の設備，施設と内的充実が重要課題であると考えます。

小学生人口の減少など今後の暗い見通しに対しても，自ら工夫を重ね，質的向上に努めて大学院教育研究科の設置などを当面の課題として進みたいと考えております。所要教官定員数も十分でなく，幾多の困難が予想されますが，関係各位の御理解と御指導を仰いで，

微力乍ら精一杯努力したいと考えて居ります。以上ご挨拶にかえさせて頂きます。

新　任　教　官

○川本栄一郎　教授（人文学部）　60. 4. 1
昭42. 3　東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得
担当：国語学

○河村　貞枝　助教授（人文学部）　60. 4. 1
昭48. 3　京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得
担当：西洋史学

○中村　宗彦　教授（教育学部）　60. 4. 1
昭36. 3　京都大学大学院文学研究科修士課程修了
担当：国語学

○室橋　春光　講師（教育学部）　60. 4. 1
昭59. 3　北海道大学大学院教育学研究科博士課程修了（教育学博士）
担当：障害児心理

○武田紀代恵　講師（経済学部）　60. 4. 1
昭53. 3　東京大学法学部第2類（公法コース）卒業
担当：財産法

○森岡　裕　助手（経済学部）　60. 4. 1
昭57. 3　神戸大学大学院経営学研究科博士課程（前期課程）修了
昭60. 3　同上　（後期課程）単位修得退学
担当：国際経営論（比較経営論）

○氏家　治　助教授（理学部）　60. 3. 1
昭47. 3　東北大学大学院理学研究科博士課程修了（理学博士）
担当：地殻進化学

○松本　幸生　教授（工学部）　60. 4. 1
昭28. 12　東京大学工学部機械工学科卒業（昭55. 1. 5工学博士）
担当：制御工学

○永井　和　助教授（教養部）　60. 4. 1
昭54. 3　京都大学大学院文学研究科博士課程退学
担当：歴史学

○小柳津広志　講師（教養部）　60. 4. 1
昭57. 3　東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（農学博士）
担当：生物学

新　任　の　挨　拶

人文学部教授　川　本　栄一郎

この4月より富山大学に勤めることになりましたが，以前，金沢大学に勤めていました際に，富山県には，方言調査でたびたび参っておりましたので，このたび，弘前からこちらに移って参りましても，よその土地に来たような気がしません。まるで自分の故郷にでも帰ったような気さえしまして，心の安らぐのを覚えます。

現在，呉羽丸富町というところに住んでいますが，大学へ来る途中，呉羽山を下るバスの車窓から見える立山連峰の雄大な眺めはまことに素晴しく，見るたびにいつも心の洗われる思いがいたします。

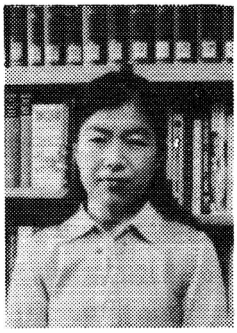
先日，呉羽山中腹にあります長慶寺を訪ね，富山の生んだ偉大な国語学者，山田孝雄博士のお墓にお詣りしましたが，その時に呉羽山山頂から見た立山連峰と富山市街の眺めはまた格別で，まさに絶景としか言えようのない素晴らしい景観でした。

ところで，呉羽山といいますと，ここは，富山県の方言を呉東と呉西に分かつ境界地帯としても知られているところであります。私の場合，この方言境界を越えて呉西の呉羽町から呉東の五福へ通っていることになるわけでありますが，方言研究に携わる身としましては，方言境界で有名なこの呉羽山を越えますたびに，なんとなく軽い心の高ぶりを覚えます。いずれそのうちに，五福や呉羽で方言調査を行ない，両者の異同を確かめてみたいと考えています。

富山県の方言は，いわゆる西部方言に属する方言でありますが，東部方言の新潟・岐阜両県方言とも境を接していまして，方言学上，きわめて重要な位置を占めています。これからは，富山県内部の方言を対象に研究を続けて参りますとともに，東部方言との接触地帯における方言の状態を，地域差・年齢差・場面差などの観点から動態的に把握するための研究を進めて参りたいと考えていますので，ご指導ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

着　任　の　ご　あ　い　さ　つ

人文学部助教授　河　村　貞　枝



まだ山あいのところどころに残雪の見られる北陸自動車道を駆け抜けて富山入りして早ひと月半，吹く風も急に夏めいてきました今日このごろ，ようやく富山での新しい生活にも慣れてまいりました。これまで神戸・京都と関西の地を離れたことがなく，北陸の生活は全くの初体験の私です。神戸は坂の街，坂を上がれば北（ウエ），下がれば南（シタ），また京都は碁盤の目の街で，坂がなくても，アガル（北行），サガル（南行）の表現が生きていましたので，いずれにせよ方角を見失う心配はありませんでした。富山では，まだ方向感覚がつかめず，神通川を渡る度毎に，川の流れる方向を“こちらが北”と思い込むように努めていますが，たまに市の中心部に出かけますと，自分がどちらを向いているのかわからなくなり，しばし街角で立往生して考え込む始末です。たぶんに方向オンチの私ではありますが，方向感覚というものは，土地の生活に溶けこまずしては得られないのかなと感じているところです。

でも，大学の中では，幸いあまり異和感を感じないで，むしろ古巣に戻ったような懐しさすら覚えております。と申しますのは，こちらに赴任する前の4年間は小さな女子短大に在職していましたが，その前は大学，大学院，オーバードクター，助手と京都大学での生活が長かった（長過ぎたぐらい）からです。地方国立大学と旧帝大では当然差異があるでしょうが，活気にあふれたキャンパスの雰囲気にどこか似通ったところがあるせいかも知れません。また，ここでは夜間で

もいくつかの研究室の窓に明かりがともっています。短大でも，個室をいただいてはおりましたが，昼間はクラス担任等の雑用が多く，夕方からは建物全体が無人の警備保障の状態になるため，研究のために居残るということはできませんでした。ですから，いま夜間も研究室に残って机に向かい，夜更けて家路につくことができるということに素朴な喜びを感じており，これが京大時代に戻った様ななつかしさを覚える一因かと思われます。

富山については，万葉の歌人大伴家持が越中守として在任したとか米騒動発祥の地であったこと程度のはなはだ貧弱な知識しか持っておりません。これからおいおいこちらの歴史や文化の動きも勉強させていただこうかと，また自然に恵まれた越中の山野も歩いてみたいなどと，新しい生活に夢をふくらませております。

教職員の皆さま，どうか宜しく御指導，御教示のほどお願い申し上げます。また学生の皆さん，同じ大学で共に学ぶ機会を得たご縁を大切に致したく，よろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

教育学部教授　中　村　宗　彦

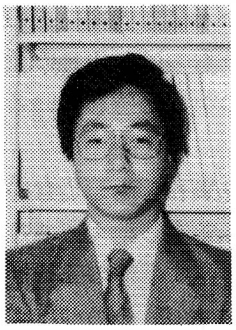
2年前の秋に当地で開催された学会に参加した際，暇を作って郷土資料館や城址公園を巡ってみた。鯉の泳ぐ松川の流れや河畔の彫像群に心を惹かれ，文化の香り高い静かな都市との印象を深めて帰った。爾来，富山のこの思い出が生き続けていたところ，思いがけずこの度，本格的に当地にお世話になることになった。これがご縁の深さというものであろうか。

こちらに赴任する際，ある先生から，「大伴家持の万葉集中における全作歌470首中，220首までが越中守時代に作られたのだから」という激励のことばを頂いた。家持とはまた途方もない話であるが，山嶽らしい山のない奈良盆地から赴任してきて，夏なお白雪を頂く「神の山」立山連峰を仰ぎみた彼の戦慄に似た感動の幾分かは伝わってくる気がする。この壮大な景観に励まされながら，ささやかではあるが全力を尽してゆきたい。宜しくお願い申し上げる次第である。

新任のごあいさつ

教育学部講師　室　橋　春　光

Aさんへの手紙　－富山から－



お元気ですか。富山に来て1ヶ月たちました。今，新しい生活をはじめつつあります。札幌では，ちょうど桜の咲いたところでしょうか。当地富山では既に桜も散り，青葉のまぶしい季節となりました。街や大学構内には桜並木がたくさんあり，みごとな眺めでした。名古屋を離れて15年余，久しぶりにお花見を楽しみました。札幌はもうしばらくすると，リラの季節ですね。父は能登の生れ，私も長岡の生れで，富山はふるさとのようなものであり，なつかしくもあるのですが，新しい生活に今，少しばかり緊張しています。

ここでの私の仕事は，養護学校教員の養成という教育と，障害児心理学という領域の研究をすることです。これまでの，脳波・誘発電位を示標とした認知・学習過程の生理心理学的研究，いわば認知生理心理学ともいうべき研究領域を，障害児心理学の領域に拡大し深めてゆくことが私の今後の課題です。学生諸君とともに障害児に接するなかで，研究の過程において得られた知見を再検討してゆくとともに，彼らからは人間のありかたについていろいろな面から教えてもらうことになるでしょう。

富山もよい街です。一度おでかけください。まずは近況報告まで。

新　任　雑　感

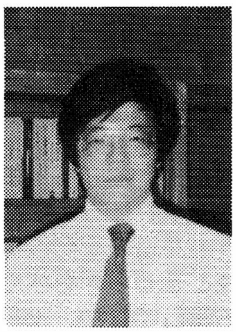
経済学部講師　武　田　紀代恵

財産法担当教官として，本学に赴任してから1か月余りが過ぎました。私は高校卒業時まで富山で暮らし，また，両親をはじめとして親類縁者の殆どが富山に居住しておりますので，今度，私が本学に赴任したことは，故郷に戻ったということになります。そこで，富山という土地に住むことに関しては，何らの違和感もとまどいもありません。しかし，人に教えるという立場に立つのは今回が初めてのため，富山大学に勤務するについては，毎日，慣れない事ばかりで，バタバタと走り回っている有様です。

さて，私は，本学に赴任するまでの3年余りの間，東京のさる渉外法律事務所―主に外国人を顧客とする弁護士事務所―において，調査・研究に携っておりました。しかし，調査・研究と言っても，法律事務所といういわばサーヴィス業におけるそれですから，そこには，自ら限度がありました。すなわち，その範囲は顧客のニーズに合わせることになり，また，時間的制約もあって自分の納得のいくまで調査・研究することはなかなかできませんでした。今回，大学に職を得たことで，従来から温めていたテーマについて充分研究ができる環境を与えられたので大変うれしく思っています。現在のところ，まだ，毎日，講義やゼミの準備に追われていますが，もうしばらくして落ち着いたら，腰をすえて研究に取り組もうと思っている今日近頃です。

新任にあたって

経済学部助手　森　岡　　裕



今年の3月中旬に初めて富山に来たのですが，思っていたより暖かくてホッとしたというのが，その時の実感です。また，大学院時代は，坂道ぞいに段々畑のようにキャンパスがつらなるといったようなところですごしてきましたから，こちらのように平原の街へ来ますと，街全体が広々としていて，ゆったりした気分になるように思います。ただ，方向の感覚について言いますと，自分自身に言いきかせているのですが，南北の感覚にはまだ少しまごついています。どうしても長年の習慣から，山は北・海は南と思ってしまいます。これがなおるには，まだしばらく時間がかかりそうです。

こちらに来るに際して，先生や友人から，富山での楽しみとして，魚のおいしいこと，夏山，冬のスキーといったことを教えられました。もうすでに，魚についてはそのおいしさを味わいました。スキーについては，私はほとんどやったことがないのですが，私の友人にはスキーをやるものがかなりいまして，私が富山に就職したことを非常に喜んでいるようです。おそらく，この冬は，私の家はスキー民宿のようになるのではないかと思います（ついでに雪かきもやっていってくれたらいいのですが）。なお，私も，こちらの生活を楽しいものとするためにも富山のよさを一つづつ試していくつもりです。

さて，肝心の研究・教育ですが，国際経営論を担当いたします。現代は国際化の時代とよばれていますから，経済・経営も含めて国際問題を研究する意義は大きいのではないかと思います。特に富山は，海をへだててソビエト，中国，朝鮮，韓国といった国々と隣接しているわけですから，諸外国の企業経営を研究するのには非常にいい環境にあると言えるのではないでしょうか。あるいは，国際経営の問題を非常に身近なこととして考えられる位置にあると思います。

何かえらそうな言い方をしましたが，新米のたわ言と思ってお許しください。非力ですが，研究・教育に努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

新 任 の 御 挨 拶

理学部助教授　氏　家　　治

この度科学万博で賑わう“筑波研究学園都市”の研究所から理学部に転任して参りました。

これまでの私にとって富山は，常に通過する所で，ことに学生時代は国鉄と地鉄の乗り換え地として頻繁に通過しました。また研究所に勤務するようになってからも学会の折など，国鉄で通り過ぎたり飛行機から俯瞰したりしました。このように富山の風物を目にする機会は多かったのですが，それをしみじみと味わったことはありませんでした。この春から当地に身を落ちつけてみて，初めて富山のよさを実感しています。

一通りのものが一応揃っている人口数十万程度の都市が，どうやら私には合っているようです。かって勤務したことのある高松や学生時代を過ごした仙台もそうですが，この規模の都市ですと適度の知的な刺激があり，人間関係がある程度濃密なために日常生活に潤いがあり，同時にその気にさえなれば，容易に自然の中に身をゆだねることができるからでしょう。富山について幾人もの人から聞いた「雪さえなければ良い所」の雪については，未経験ですので何とも言えません。あるいは玉に瑕なのかもしれませんが，私は「瑕はあっても玉は玉」であってほしいものと願っています。

私は地球科学の一分野である岩石学を研究しております。授業の担当も同じく岩石学ですので，着任当初，学生相手の講義や実験指導に対し少し高を括ったところが無きにしもあらずでした。つまりその程度の学問的内容は蓄積済みで，難しいのは，いかに平易にかみ砕いて教えるかという点だと予想していたわけです。ところがいざ講義の準備にとりかかってみて，ある種の基礎的知識や論理の結びつきが不足していることに気がつきました。これらは，細分化した研究分野という意味では私の専門から離れた分野に属していて，これまでの私の研究には不必要だったのです。しかし岩石学が一つの学問体系である以上，その道の専門家として身につけていて不思議のない事がらです。非常におそまつな話ですが，本学に転任して初めてそのことに気づいたわけです。このように自分の研究を客観視する機会が得られるということは，大学に身を置く研究者の大きな利点だと感じているこのごろです。今後どうぞよろしくお願い致します。

新 任 の あ い さ つ

工学部教授　松　本　幸　生

このたび工学部生産機械工学科制御機器の講座にお世話になることになりました。学科と講座内の雰囲気がまことによく，研究室も程よく整備されていて直ちに仕事に取掛れたことを大層感謝して居ります。工学部では昨年に引続き移転の作業が行なわれるようですが私だけがこの大変な苦労をまぬがれることになる訳で何とも申訳なく，それだけにこれから大いに努力しなければ，と思っている所です。

こちらに来て1ケ月，4月の富山の自然にすっかり魅せられました。研究室の窓ごしに立山連峰の望める日には，“ここから先立入禁止”の立札を横に見ながらこっそり屋上に出て，遠く白馬から剣岳・立山・薬師岳と雪を頂いて白く連なる山なみに視線を走らせるのも日課の一つになりました。また大学からの帰途神通川にかかる富山大橋を歩いて渡るとき，中洲をはさむ両岸寄りの流れがどちらも甲乙つけ難くその水量の余りにも豊かで美しいのに感嘆の声を上げて立ちどまることもしばしばでした。そして橋を渡り切るとなだらかな坂道をおりた所で松川に沿う遊歩道のそぞろ歩きを楽しみ，川面までのびた桜の枝とせせらぎを泳ぐ鯉の姿にしばし時の経つのを忘れる毎日でした。4月の富山の美しさに魂を奪われた感じでいささか疲れを覚えるようになりました。致し方なく今はあきらめて大橋を乗物で渡ることにしているのですが味気ないことこの上ない今日この頃です。

ところで最近メカトロニクスと言う和製英語が盛んに用いられるようになりましたが，メカニズムとエレクトロニクスを組合せたこの新しい言葉の普及は機械技術と電子技術の一体化，複合化を強く求める側からの熱い想いのあらわれと言えましょう。これに対応して機械系学科においてもいわゆるメカトロニクス教育のあり方についてさまざまな検討が行なわれつつあるものと考えられますが“制御”を通して何かのお役に立てれば幸い，と思って居ります。

着任にあたって

教養部助教授　永　井　　和

この4月から教養部で歴史学を担当することになりました。専門は近代日本の政治外交史です。私は生れも育ちも大阪で，学生生活は京都，その後も奈良に移り住んで勤務先の京都まで通うといった生活をしてきました。言うなればまったくのnative Kansai-jinであるわけです。そのうえ私は〈スキゾ型〉ではなくて，どちらかといえば〈パラノ型〉であって〈定住志向性〉が強いので，正直言いますと，初めての土地へ移り住み，新しく生活をはじめることに（まったく馬鹿げたことですが）ある種の〈不安〉を感じていました。初めて大学を訪問したのは2月の初旬でしたが，湖西線のマキノ駅を境に周囲の景観が一変した時の強い印象は今でも忘れられません。

しかし，4月から実際に富山で暮らすようになってみると，私の〈不安〉など，まったくの杞憂にすぎないこと，なんらの根拠もないことが，すぐにわかりました。見るもの，聞くもの新鮮であり，いろいろと新しい体験をつむことができたのです。とくに，魚や貝類の美味なことと，神通川の川ごしに見える立山・剣連峰のスカイラインの壮観なることとは，大いに私の気にいりました。富山に来て良かったなと今では思っています。

富山大学については，何よりも女子学生の多いこと，そして私の学生時代のことを思えば，学生諸君がものすごく明るくて，〈解放されている〉ように見えること（ほんとうはどうかわかりませんが）この2点がとくに印象深く感じます。

今後ともよろしくお願い致します。

新任のごあいさつ

教養部講師　　小柳津　広　志

名前はオヤイヅ　ヒロシと読みます。生物学を担当しています。研究歴は昭和52年4月より東京大学大学院農芸化学専攻課程で5年間微生物の分類学を研究し，その後東京大学応用微生物研究所研究生，米国イリノイ大学遺伝学科に1年7ケ月留学後，4月より教養部に着任しました。私はそれぞれの節目において研究テーマを変えてきました。大学院では指導教官の研究テーマである微生物の分類学をまたイリノイ大学では生物全般の系統をたんぱく質製造工場であるリボゾームという器官の構造から研究しました。そこでいま今回の着任にあたってどのような研究を行なうかいろいろと考えております。研究テーマを考えることは研究者にとって最も重要なことですので，すでに2年ほど前からつぎのテーマを考えつづけてきましたが，いまだにそれが見い出せません。このような選択にあたっていくつかの選択基準を自分なりに持っています。まず第1にそのテーマは生物学全般にわたる大問題の解決であるものであり，第2に現在の設備や環境で十分解決されるものであるということです。富山大学教養部という環境を考えた場合，一地方大学で設備が不十分であり，また研究スタッフも不足していますので多くの人が取り組んでいないテーマを選ぶ必要があります。したがって，ガン，脳，免疫などの研究は対象となりません。いまはただひたすらテーマの選択のことのみを考えておりますので，何かよい知恵のある方は御助言をお願いします。自分の過去の研究には全くこだわりません。

研究は大学教官にとって最も中心となる仕事ですが，つぎに中心となるものは教育です。生物学は極めて多様な生き物を対象としています。生き物について説明する場合，実物を見せることが一番です。つぎに写真や映画など映像として見せることも重要です。生物を取り扱った映画などはNHK，民放，映画製作会社などがすでに多数製作しています。したがって，このようなものを題材として用いたいと考えております。しかし，大学での講義はテレビの特別番組とは違いますので，何か一つでも私の信念とか哲学とかいうものを学生のみなさんに伝えたいと考えております。今学期の講義は〝生命は物質である〟というテーマで行なって

おりますが，これからもうすこし内容について考え直したいと考えております。

以上，新任にあたっての抱負を述べました。微力ながら大学に活力を与えるよう努力したいと考えております。

ナイロビの「日本アフリカ研究所」

人文学部助教授　赤　阪　　賢

ケニアの首都ナイロビは，東アフリカの玄関口とあって，日本からのアフリカ旅行者が最初に足をおろす町です。1,500メートルの高原にあり，気候もちょうど5月の富山のように爽やかです。近代的なビルが建ちならび，色あざやかな花々が咲きみだれる町の様子は，テレビの画面などでおなじみのことでしょう。最近では，大きな国際会議もしばしば開かれています。

わたしは，昨年の10月から，ほぼ6ケ月をこの町で暮らす機会を得ました。日本学術振興会が，海外地域研究センターへ派遣する研究者を応募しており，幸いにも選ばれたというわけです。この種のセンターは，アフリカ地域のほかに，もう1つ西アジア地域にもあって，現在はトルコのアンカラに置かれています。

派遣研究者の任務は，「当該地域に係る我が国の研究者に対し研究実施上の便宜を与えること」，および「自らの調査研究に従事すること」の2つです。わたしはのねらいは，このところザイール東部の農耕民の文化人類学調査をつづけているので，ナイロビ滞在のあいだに短期間にしろ，この後者にのっとり調査地を訪ねてみようというところにありました。

さて，ナイロビにアフリカ地域研究センターが設立されて，すでに十数年が経過しています。今のナイロビ大学理学部キャンパス近くに移ってからでも，10年になりました。この地区は閑静な住宅地で，近くに国際昆虫生理・生態学センター(ICIPE)や，British Instituteもあって，アカデミックな雰囲気をたたえています。センターは，一般の住宅を借り上げたもので，事務所と駐在員の住居とを兼ねていますが，庭にはブーゲンビリアやジャカランダなどが咲き乱れて，訪問者の目をなぐさめてくれます。このセンターは，ナイロビ在住の日本人からは「学振（がくしん）」と呼ばれています。いっぽう，対外的には「日本アフリカ研究所(J.I.A.S.)」という堂々たる名前をかかげています。これは，歴代の駐在員がセンターの機能を説明するために用いた通称ですが，ケニアでは定着したものになっています。誰かが作ったささやかな看板も門の横に立てられています。研究所といっても，スタッフはわずか2名で，3月から1年間滞在する若手の研究者と，中年のわたしだけです。そのため，年長のわたしが，対外的には「所長」ということになってしまい，インド人の家主へ住まいの修理などの交渉に出向くのは，「所長」の大事な仕事になりました。ザイールに出かけたときは，友人に研究所長に出世したと早とちりされて，面映ゆい気持になりました。相手はザイールの科学研究所（I.R.S)のスタッフでしたから，彼の持つイメージの研究所と，われわれの「日本アフリカ研究所」とのあいだには，ゾウとアリほどの格差があったわけです。

ところで，わたしの第一の任務である，日本人研究者への便宜を供与するということですが，けっこう忙がしいのが実情です。日本のアフリカ研究が本格的に開始されたのが1960年代のはじめですが，今や研究間口も奥行きもひろがり，ずいぶん多数の研究者がナイロビを経由し，アフリカ各地へと向かいます。昨年度には，文部省の科学研究費補助金による学術調査隊だけでも12組が，研究連絡のため立ち寄り，施設を利用されました。そのほか，個人の調査で来られるかたがたをふくめると，1年間でざっと200名ほどの人の訪問を受けました。なかにははじめてのアフリカ調査ということで，調査許可の取得手続のため，大統領府との接衝に助力したケースもでてきました。事務所に詰めていると，大げさにいえば毎日朝から晩まで，のべつ訪問客があるということになり，駐在員は自分の時間を持つことができないのが悩みでした。しかし，さまざまの専門分野の方々にお会いして，調査のねらいや成果などの新しいトピックを聞くことができたのは，楽しい経験でした。たとえば，サバンナに植わって特異な形態をみせているユーフォルビアに含まれている，発ガン促進物質の研究グループが来訪された時など，ちょうど居あわせた人類学者たちが，牧畜民調査の中で得た民族植物学のデータを交換して，にぎやかな議論になりました。「学振セミナー」という研究会は，2ケ月に1回ほどのペースで開催することになっており，すでに60回を数えているが，現地調査でえ

たホットな話題を提供してもらうことになっている。ナイロビ在住の日本人は，今や700人に達しているというが，中には熱心な参加者があって，どうやらここで顔を合わせて，終了後にビールを飲みかわすのも，このセミナーの楽しみのひとつだったようです。
この小さなアフリカ研究所には，歴代の駐在員が収集した，ケニア国内の地形図，地質図がそろっており，アフリカの動物学，植物学，地質学，地理学などの書物も一応入っていて，小さな図書館になっています。日本で出版されたアフリカ関係の書物や学会誌，研究紀要などもありますが，ただ，残念なことに近年のものが届いていないようです。アフリカ研究者自身にも，この施設を充実させようという熱意が，当初に比べて薄れてしまっているのだろうかと感じました。隣接するイギリスの研究所の充実したスタッフと設備とくらべると，われわれの「貧しさ」を痛感させられます。とくにケニア人研究者や外国人研究者から寄せられる期待には，じゅうぶんに答えられるにはいたっていません。
文化の面での手厚い配慮を本国から得られそうもない現状では，研究者それぞれのささやかな努力でもって，この「日本アフリカ研究所」を大きく育てる以外ないようです。

アメリカから帰って

教育学部助教授　渡　辺　　信

今年の2月中旬，10ケ月半ぶりに富山に帰って驚いたのは，大学のメインストリートに車があふれていたことです。今日は特別の催し物があるのだろうと思っていたのですが，大学が狭くて充分な駐車場がないということを，しばらくして思い出しました。

誰もが知っているように，アメリカは広大な国で，実際に行ってみるとその広さに驚きます。私の行ったオハイオ州立大学は人口100万人のコロンバス市にあり，東西南北の道路を基本に平たく作られています。大学には巨大なフットボール場，50m屋内プールを含む体育館，100面のテニスコート，ホール，病院，学生寮などがひとつの敷地にあり，その他にゴルフコース，飛行場もあります。コロンバスの街中や郊外にはたくさんの公園があり，週末には一日中ゆっくりそこで過すことができます。

土地が広いのは道路も広いということで，片側二車線あるのは普通で，大きい交差点では右折，左折専用車線があり，日本の左折にあたる右折では信号が赤でも一担停止後発進することができます。左折には優先信号が設けられており，直進車の流れの切れるわずかの間隙にこわい思いをして右折しなければならない日本の交差点とは大いに違います。富山の荒町交差点など，そのようにすれば良いと以前から思ってましたが，今回またその思いを強くしました。

アメリカは今冬も昨冬に続いてとても寒い気候でした。－25℃ぐらいの日が数日続いて排水パイプが凍結したために，アパートの階上の住人の流す風呂の排水が我家に逆流するという騒ぎがおこる程でした。よく御存知のように，アメリカでは家中を暖房します。大学ではビルディング全体を空調しており，だいたい室温は20℃前後に保たれています。外で雪が降っていても中ではTシャツ1枚という生活ができる訳です。11月下旬5℃前後から真夏の30℃前後までと巾の大きい富山大学の建物内とは全く違います。ドアは空調の必要のため，自動的に戻って閉じるようになっています。富山大学でも全館暖房というのは無理でしょうが，せめて手を離せば自動的に閉じるドアにしてもらえないかしらと思ったものです。吹雪の日，誰かがしめ忘れた戸から冷気の吹き込む廊下を歩くこと思えば，あまりぜいたくとは思えないのですが。

大学の研究室の設備も良いものがそろっていました。研究室は充分なスペースがあり，装置は適当に配置されていて，その場所に行けばすぐに始められるようになっています。人数も少なく，日本のあちこちに見られる過密な研究室とは大分違います。備品には多くの外国製品が入っており，日本，西ドイツ，イギリス，スイスといったところです。ほとんどのアメリカ人は，良い品物ならどこの国の製品でもいいと考えているようで，つまり金持は手に入るもので一番良いものを選ぶということなのでしょう。

さて今や日本の貿易黒字が何百億ドルにも達し，市場開放など大きな経済問題になっています。日本がこんなにもうかっているのに私個人の生活は一向に良くならないのはとても不思議ですが，それはともかく，

中曽根首相自らアメリカ製品を1人100ドル分ずつ買うようにとキャンペーンをしたものです。100ドルで買えるリストが発表されていましたが，あまり目ぼしいものはありませんでした。そのなかで，テフロン加工したこげつかないフライパンは，アメリカで使っていてなかなか便利でした。でも日本でこれがないと困るというものではありません。またローストビーフを焼くための肉に差し込む温度計もありました。使ってみて重宝したものです。しかし日本では全く出番がありません。というのは，日本では肉が高すぎて買えないし，買える肉は薄すぎてそんな温度計を必要としないからです。

これでは，アメリカ製品を買うこともなくなり，善良な国民である私は非常に心苦しいので，アメリカに金を還元する方法をひとつ提案したく思います。

日本人は，狭い国土にひしめいて，土曜日も働き，寒い冬を過すためにたくさん着込み，牛肉を見るのも嫌という食生活をしたこともありません。このような生活から離れて少なくとも1年間アメリカで過ごすのです。短期の旅行でなく住んでみるのです。日本人の貯蓄は世界でもトップクラスですから，アメリカでは働かずにその貯金を送金します。家族のあるものはなるべく家族全員で行くことにします。結婚しようとするカップルは何百万円もかかる結婚式をやめ，その費用にあてます。大学生はどうせ遊んでいるようなものだから，休学してアルバイトし，不足分は親に車を買ってもらう代りに金を出してもらえば良いでしょう。貧乏人は安アパートを借り，整備不良でも高い大型のアメリカ車を買い，週末は公園で遊び，博物館や美術館，ゴルフコースやテニスコートで平日を過ごす。時には安いモーテルで自炊しながら自動車で旅行をするのもいいでしょう。金持ちは，程度に応じて金をかければ良いと思います。

このような生活をすると，1人100ドルなどと言わなくてもいいぐらいの金をアメリカに落すことになります。アメリカの最大の売り物はその広さと豊かさで，これを買うことはできないからレンタルにする訳です。急に日本人が増えると黄渦だとまた騒ぐと困るので，その時こそロンーヤスの関係で納得していただく。1年間以上休職するとクビになる危険性があるので，クビにできない法律が必要かも知れません。いろいろな障害はあるでしょうが，このアメリカ体験出張計画は経済的にも効果の高い方法だと思うのですが，如何なものでしょう？

日本の印象

経済学部助教授　泉　田　栄　一

私は一時帰国を含めて1年10カ月ほどヨーロッパ（主として西ドイツ）に留学していました。そこで帰国して感じた日本の印象をここで記すことにします。

最初にヨーロッパの地を踏んでから2，3カ月の間日本人の生活が正常であり，ヨーロッパ人のそれは異常であると感じていました。それが帰国する頃には逆転して，日本の方がむしろ異常であると感じられるようになりました。その気持ちは今も変りません。この狭い島国に単一民族が押し合いへし合い太平を謳歌している様は，一種独特の感慨を引き起こさずにはいられません。それは日本の長所であり，短所でもあることを痛感する今日此頃です。

ヨーロッパは一部の国を除き陸続きでありますから，国防は国の最重点政策となります。東西両陣営の対立は外国人の私にさえその厳しさを感じさせるものでした。これに比べれば高校野球（ヨーロッパ人はサッカーを行うが，野球を行わない）で大騒ぎする日本は太平楽です。

ヨーロッパではアジアの諸国民が外見だけでは区別できないことも知りました。外見から日本人であると思っていたら，違っていたケースにしばしば遭遇しました。頭髪がすべて黒というのはヨーロッパでは考えられない現象です。彼等の頭髪は様々な色をしています。

国により異なりますが，外国人と意識せずに，外国語を話す人々が多いのも日本と異なる点であると考えます。スペインの列車旅行中にデンマーク人，メキシコ人と同室になり，会話を交すという経験もしました。

日本に匹敵するほど騒音に寛大な国もヨーロッパでは見かけませんでした。日本で通常行われている拡声器を使用しての物の販売は言語を絶するように思われます。

生活のための手段として労働を考えるのが徹底しているのも日本人と異なる点であると考えます。ドイツ

人学生に日本では職場単位で団体旅行を行うと述べましたら，同僚と顔を合わせるのは職場だけで充分であると言われてしまいました。

従って自分の生活を大切にするのも日本人と異なる点であると考えます。土曜日には商店が一斉に閉りますし，夏には1カ月近い休暇を取って家族と共に生活をインジョイします。夜には夫婦で，子供を家に残して，オペラ等に出かけます。子供の躾は厳しく（そのため一ドイツ人女子学生は顔をしかめていました），子供は半人前にしか扱われません。

私の娘は幼稚園に通っていましたが，園から父兄の呼び出しがあったのは，ＰＴＡの時一度限りでした。日本に帰国して入園したら次から次と呼び出しがあり，誰のための幼稚園か疑いたくなりますが，ドイツでは決してそのようなことはなく，先生が責任を持って園児を指導していました。そのため日本と異なり，いわゆるいじめっ子もいませんでした。むしろドイツ語を話せない我が子を年長の子供達がサポートしているようでした。その点他の子供と少しでも異質であればそれをやゆする子供がおり，それを阻止できない教師がいるという点は，いかにも日本的であると思います。

ヨーロッパ人はその外合理的なものの考え方をする点も日本人と異なる点であると思います。例えば大学の図書室の本は学生に使用させるためのものであるという発想からか，学生が書庫の中に入って本を直接閲覧できるというシステムを取っている所が多くありました。本を書庫にしまって，管理するのは，本末転倒であるということだと思います。

またヨーロッパでは概して家の作りが頑丈で，室内は広く，セントラル・ヒーテングでした。日本に帰国してからは室内が狭く，冬は部分暖房ですから，寒くてなりませんでした。道路にしろ，むき出しの電線，電柱といいまだまだ日本はヨーロッパにかなわないというのが実感です。

それにしてもどうでも良いようなテレビ番組（子供の番組にいたっては暴力，怪獣番組がやたらに多い）が一日中流れ，そうでなくても乏しい資源がこれによって浪費され，日本中がお祭り気分に浸っているというのが私の日本に帰国して受けた印象です。社会のテンポが早すぎ，根が大地にしっかりついていないという感じです。ヨーロッパに存在する多数の日系企業の日本人社員の活躍を見た今，大学の研究室で依然として家内手工業的研究方法を採用せざるをえない大学の現状も憂慮されてなりません。

特定研究

「東アジア地域の形成と展開」（人文）に関する経過報告

人文学部教授　梶　井　　陟

人文学部の教官有志20数名が組んで，「東アジア地域の形成と展開」をテーマとする共同研究を「特定研究」として申請し，スタートさせてから今年はすでに第二期目の最終年度を迎えている。

周知のように本学人文学部は，語学文学科と人文学科の大学科のなかに，16にのぼる専攻コースをもち，しかもヨーロッパ諸国のもののほかに，朝鮮・中国・ロシアの各語学・文学コースを包含するという，他の国立総合大学には類を見ない，きわめてバライティに富んだ学部である。この豊富な専門分野の特色を生かした，いわば富山大学だからこそできるのだという，何かがあるのではないかという発想が「東アジア」に関る特定研究の構想を促した。それが，現在も概算要求に提出されている全学的な研究組織である，「東アジア研究センター」実現のための基礎づくりともなる，本共同研究発足の動機となったものである。

第一期（55年4月〜58年3月）の総合研究テーマは，「日本を基点とした朝鮮・中国・ソ連の地域的特性に関する共同研究」であった。研究参加者とそれぞれの専攻分野は次のとおりである。

楠瀬　勝（日本史学），鎌田元一（日本史学），※櫛木謙周（日本史学），※永田英正（東洋史学），※小谷仲男（東洋史学），夫馬　進（東洋史学），※長沼忠兵衛（西洋史学），※河村貞枝（西洋史学），※服部良久（西洋史学），※浜谷正人（人文地理学），神前進一（人文地理学），※木下　良（人文地理学），秋山進午（考古学），和田晴吾（考古学），和崎洋一（文化人類学），赤阪　賢（文化人類学），横井　清（文化構造論），松島英子（文化構造論），浅井　享（言語学）鈴木敏明（言語学），※都竹通年雄（国語学），釘貫享（国語学），※川本栄一郎（国語学），山口　博（国

文学），山口幸祐（国文学），佐藤　進（中国語学），三宝政美（中国文学），磯部　彰（中国文学），藤本幸夫（朝鮮語学），梶井　陟（朝鮮文学），藤井一行（ロシア文学），矢沢英一（ロシア文学），吉田　清（ドイツ文学）――※印は途中の入，退会者（現在は29名。

以上に見られるように，本研究組織は「東アジア」地域文化を多角的にとらえるために，人文学科，語学文学科の両科にまたがった，多方面の専門研究者によって構成され，さらにその特色を充分に生かして一層成果を高められるように，全体を(1)地域総合班，(2)歴史研究班，(3)語学文学班，(4)考古美術班の四班に編成し，研究参加者の全員が，それぞれの専門的研究に最も密接な関係をもつ班に所属して研究を進めた。その3年間の成果が，昭和58年3月に刊行された報告集にまとめられており，これには次の諸論文が発表されている。

M・ウェーバーの中国社会観（長沼忠兵衛）

清代沿岸六省における善堂の普及情況（夫馬　進）

雑誌『朝鮮』ならびに『朝鮮及満州』における朝鮮文学の位置ー特に近・現代文学をめぐって（梶井　陟）

『帝国文学』とロシア文学ー付資料『帝国文学』におけるロシア文学関係記事一覧（矢沢英一）

Preliminary survey of the Languages around the Japan Sea（Akasaka, Masaru; Asai, Tooru; Fujii, kazuyuki; Fujimto, Yukio; Hofmann, Thomas R; Isobe, Akira; Kuginuki, Tooru; Satoo, Susuwu; Suzuki, Toshiaki; Tsuzku, Tsuneo; Wazaki, Yooichi; Yazawa, Eiich;）

海獣葡萄鏡と走獣葡萄鏡（秋山進午）

『続紀集解』引用漢籍索引（鎌田元一，佐藤　進，磯部　彰）

眉巌過眼書録（藤本幸夫）

中国の教科書管窺ー文革後の国語（小学）教科書をめぐって（三宝政美）

さて，第一期研究成果報告集が作成されると同時に，第二期共同研究の申請がなされ，これが認められて「東アジア世界の生成，発展及び他文明との関係について」がスタートを切ったのは，昭和58年度である。この間前掲の組織名簿中の※印に見るように，研究参加者に若干の入替えがあり，また新しい研究テーマに沿った研究の進め方を考慮して，研究組織そのものも次のように再編された。

A．東アジアを中心とする都市構造と都市空間の認識

1班　歴史上の都市研究

2〃　現代都市研究

3〃　技術と技術者研究

B．東アジアを中心とした地域における文化の伝播と受容

1班　東アジア世界におけるロシアマルクス主義の変容

2班　東アジアにおける漢字の学習及び漢字利用の展開

3班　日本近・現代文学と中国近・現代文学

4班　文学から見た東アジアとヨーロッパ

5班　北陸地方を中心とした漢籍の研究

ところで第一期の時もそうであったが，われわれにとっての大きな課題の1つは，「共同研究」のもつ意義をどれだけ研究成果に反映させられるかという点にあった。そのためわれわれは，年数回の全体研究会のほかに，数多くの各班別研究会を開いて，個々の研究の質を高めることにつとめると同時に，相互の研究内容の交流によって，共同研究の目的達成に努力を重ねてきた。そして本「特定研究」につけられた多額の予算によって，中国方志叢書を核とする大量の資料をはじめ，まだまだ不充分ではあるが，研究推進に必要な各種備品の整備も進めてきた。その成果が今ふたたび問われようとしている。われわれは本研究に注目している多くの人びとの厳しい批判にたえうる，またさらにこれを飛躍台として第三期の申請をしても認められるような研究を発表すべく，努力を続けている。

南極・みずほ基地での生活

理学部助手　川　田　邦　夫

第25次南極地域観測隊の雪氷学研究部門の越冬隊員となり，1983年11月14日，処女航海の新南極観測船「しらせ」で東京の晴海埠頭を出航し，1年余りの越冬観測を終えた後，第26次の船で南極を離れ，途中モーリシャス国で下船し，パリ経由の飛行機で，今年3月25日成田空港へ帰ってきた。晩秋の日本を離れてすぐに熱帯域に入り，気持ちよいインド洋を南下してオーストラリアの西岸，フリマントルに寄港した。肉，野菜，酒などの食料の調達が行われる間の4～5日間，隊員達はこれからの長い南極越冬生活に耐えれるよう，各自観光や小旅行，ショッピングなどして羽を伸す。こゝを出ると間もなく暴風圏だったが，大した動揺も少いまゝ南極域に入った。気温は次第に下がり，鯨やシャチの群にカメラのシャッターを切っているうちに氷山が見え出し，いつの間にか海氷域を「しらせ」は力強く突き進んでいた。アザラシやペンギンの姿が海氷上に見られ，いよいよ第1便が昭和基地へ向けて飛ぶ頃，船は遂に乱氷帯に行手を阻まれることとなった。これからチャージングという砕氷航行が始まったが進行速度は極めて悪くなり，昭和基地や，内陸の物資集結地点への人員や物資の輸送も並行してなされ始めた。

クリスマスを艦で過した翌12月26日，内陸方面への物資の送り出しを確認して，私は昭和基地へ寄らず，直接大陸へ足を下した。すぐに物資の橇への積み込みをし，橇の編成を終えて，こゝより250㎞程内陸にあるみずほ基地へ向けて雪上車4台で出発した。年が明けた1月2日，遂に我々はみずほ基地へ入り，迎えてくれた24次隊のメンバーと引き継ぎを行うこととなった。24次隊員がすべて引き上げた1月末から我々6人だけのみずほ基地越冬生活が始まった。

この基地の建物は，元雪面上に建設されたのだが，今は埋ってしまって完全に雪面下にある。ベニヤ板をずらして竪穴式の入口から雪の階段を10段程下りると基地内の狭い通路に出る。こゝに観測棟，居住棟，医療棟と呼んでいる3つのプレハブ恒温室があり，通信観測実務，寝室，食堂などに使われている。これら居住区から離れた場所に，幌張りの12KVA，および16KVAの2つの発電機室があって，予備の12KVA発電機室は通路をはさんだ向いにある風呂の脱衣場となっている。基地内居住区の暖房と風呂，造水そうは発電機の冷却水を循環させて利用している。風呂水交換をし，電塊をたくさん入れて造水しているときは室内の気温も下って寒くなる。

基地内には他に，食料庫やたくさんの物品庫があるが，いずれも通路に面した雪壁を大きく掘りとって作ったものである。通路や倉庫の天井には非常に発達した霜がついていて大変美しい。夏には外の明りが積雪を通して通路に達し，電灯のつけてないトンネルの奥など青色から柴色に染まって幻想的な美しさを見せてくれる。このことを"柴御殿"と言っている。基地内の気温は夏に外気温が－15℃と高くなっても－30℃位で余り変わらない。冬に外気温が－40℃あるいは－50℃以下と急激に下がると，氷震といって，氷(雪)の割れる音が大きく響いて気味の悪いことがある。

先に述べた風呂は，－20℃以下の通路に面していて雪の壁に囲まれた天井の低い狭い洞の中にある。湯舟に入っているときだけ快適な安らぎを感じるが，洗い場で身体をゆっくり洗っている余裕はない。数分しないうちにすね毛は霜で白くなり，頭髪はばりばりに凍る。洗い場の角にかけてある大谷直子が入浴している姿を撮ったパネルも半分は霜で見えなくなっている。風呂の廃水にも頭を痛める。最初は通路わきに溝を掘って8㎜程離れたクラックの中に導いていたが，すぐに凍って溝が埋ってしまう。そこで洗い場のすぐ下に穴を掘ってペールかんのバケツを置き，廃水を溜めていっぱいになったらクラックまで捨てに行くという方式にした。しかし，たまに頭など洗ったりして，うっかりしていると廃水がバケツをあふれ，真裸のまゝ，裸足で捨てに行ったことも何度かあった。

基地内のトイレは過去種々に工夫されてきたようであるが，現在は大の方と小の方を分けて使っている。前者は居住区の近くにあり，2㎜四方の雪壁に囲まれた広いスペースの中で，多少寒いが快適にできる。以前の隊員が作ったらしい大きな模型の帆船がかざってあり，これに霜がついてシャンデリア風の照明の下で美しく輝いている。この基地の訪問者でこの美しさを写真に撮って帰った人も多かった。トイレ内には80㎝深程の大きな穴が掘ってあり，この上に厚い2枚の

板が長方形の木枠をはさんでわたしてある。木枠には大きなビニール袋が開げてはめてあり，穴底に達している。この中に落すわけである。6人生活で10日から2週間程度でかなりの量になる。当番は穴の下に入ってビニール袋をとり出して口を閉じ，外のゴミ山へ捨てに行く。そして新しい袋がセットされるのだが，こゝで小便だけの使用を遠慮してもらっているのは，袋が早くいっぱいになり，凍った後も持ち出すのに重くて苦労するからである。基地内では同じ食事をしているわけだから袋の中の物は似てくると思われるが異様なものも時々あって食物を疑われる。小便の方は別の場所に最初直径12㎝，深さ10ｍ程の孔を掘り，廃品利用の便器をとりつけて小便所とした。これは時々つまって困ったが，風呂水など大量の熱いお湯を時々流して孔を広げることで解決した。

さて，みずほ基地では6人が越冬して氷床の掘削作業などに従事した。もちろん調理人らは昭和基地だから，こゝでは6人が交替で食事をつくらねばならない。そこで当直制がとられ，6日に一度の割でまわってくる当直者は，全員の三食の食事の準備と片づけ，発電機関係のワッチ（1日4回チェックシートに従って各部を点検），午後の昭和基地との通信，造水そうの水造りと居住棟への運搬，掃除など雑務に追われる。しばらくすると余裕が出てきて読書時間などとれるようになるが，最初のうちは流石に辛く感じた。当直は他の全ての仕事が免除になる。一般家庭の主婦は，これらの他に育児，買物，近所とのつき合いがあることを考えるとき，女房族の偉さをしみじみ感じた。

仲間のほとんどは炊事に不慣れだから，当直がまわってくるとメニューに頭を悩まし，料理の本を調べて必要な材料を前夜食料庫から持ってきて解凍しておく。忙しい作業が定常的になってくると気も沈むので，当直になったら気分転換として気合を入れて手の込んだ料理を作ってみることもある。誕生日や祝い事のある時はパーティ料理に近いものが作られる。8ケ月ものみずほ基地越冬中に皆の料理の腕は格段に上った。

かなり厳しいときもあったみずほ基地の生活だったが，こゝには分業できない人間生活の基本があったように思った。

富山大学情報処理センターの紹介

ー 新入生のみなさんへ ー

富山大学情報処理センター長　川　井　清　保

新入生のみなさんを迎えてこの2ケ月，キャンパスのこゝかしこでは，厳しい冬の間を堪えて芽を育ててきた花木が次々に美しい花をつけてきました。その花木の営みには及ばないまでも，学長をはじめ，教職員の一丸となっての努力の結果，富山大学に情報処理センターが設置され，今年1月にその運用が開始されました。そこで新入生のみなさんに「富山大学情報処理センター」を，以下単にセンターと略させて頂いて，紹介させて頂きます。

センターの建物は，学生便覧の建物配置図の⑨計算機センターの一部を取り壊して新営その他の工事が行われ，昨年秋に竣工しました。2階建てで，墨痕鮮かな門標は本学の押田先生の揮ごうです。なお，センターの設置により，昭和40年に設置されて以来，本学の教育と研究に大きく貢献してきた計算機センターは昨年廃止されました。

センターの目的は，本学での

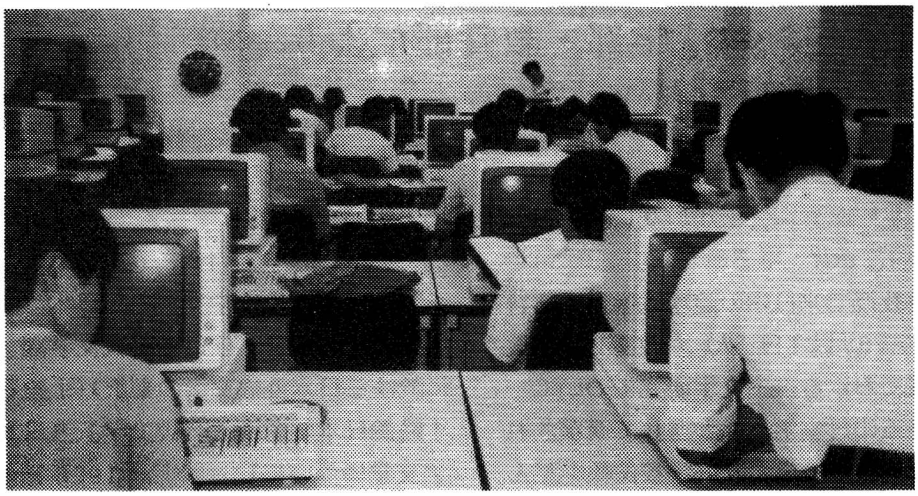
(1) 学術研究及び卒業論文，特別研究あるいは修士論文等での研究

(2) 一般及び専門教育課程での情報処理に関する実習や演習等での教育と経営短期大学部での教育

(3) 附属図書館の業務電算化

での利用です。みなさんが研究でセンターを利用するのは，やや先のことですが，そのうち，実習等で利用するようになると思います。

“時代に対応した研究と教育を進展させるために，センターを設置して欲しい。” このみんなの念願が，全学を挙げての強い熱意でようやく実現したのですから，情報処理システムの導入に当っては，センター設置準備委員会（委員長・廣瀬禧七郎教授）を中心に，昨年1年間に限っても延べ50回に及ぶ会合でハードウェアとソフトウェアの両面にわたって検討が重ねら



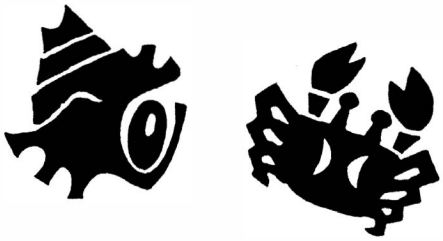
授　業　風　景

れました。おかげで，人文社会系・理工系を問わず，学術研究の広い分野で便利に利用できるシステムー超高速・超高密度テクノロジィを駆使した高性能大型汎用コンピュータを豊富なソフトウェアで支援ーが整いました。これまでに学外から団体も含めて多数の見学者の来訪を受け，それらの方々から一様に“見事なシステム構成である！”と大変なおほめを頂いています。多少のお世辞を差引いても，学長が“他の国立大学には見られない最新の設備を整えている。”と自負しておられるシステムであることに違いはありません。勿論，利用者の方々には満足を頂いています。

データ通信網も革新的に整備されました。光通信は，光が外に逃げないように加工された細径のファイバにレーザー光を乗せたもので，多くの優れた特性を持っています。本学のキャンパス内の主な建物はすべてこのファイバ・ケーブルにより光ネットワークで結ばれています。また大学間ネットワークも利用できます。したがって研究室に端末があれば，研究室にいながら，センターは勿論のこと，全国の大型計算機センター等が利用できる，という大変便利なキャンパスになっています。

附属図書館には多機能パーソナルコンピュータが配置されていて，それらは端末としてセンターに接続されています。年々増加の一途を辿る学術情報を，限られた人員と予算で迅速に整理し利用者に提供するため，前・現両館長をはじめ，図書館職員の努力と図書館利用者の協力で業務電算化が進められています。

センターの概要を以上のように紹介させていただきましたが，文書や図形の編集または電子ファイリング，各種データの統計的解析や図形処理，設計製図，文献情報データ・ベースの検索や構築などセンターの優れた機能をできるだけ多くの方に利用していただきたいと思っています。とくにみなさんは，これからの先端技術・高度情報化の社会を担い，その社会で活躍する人達です。そのみなさんに，それぞれの専門分野の教育・研究の中で，センターを大いに活用して貰いたい，と思っています。



学部・教養部だより

◇ 人文学部

特別講演会開催される

関西大学との交換教授で来日中の遼寧大学日本語科副教授，王凌先生は，5月21日（火），教養201番教室において，「中国における日本文学研究について―比較文学の目から見る中日文学―」と題して講演された。王先生の講演は，遼寧大学と友好学校関係を結んでいる当大学のため，特に依頼されたものである。王先生は日本近代文学の翻訳者紹介者として著名である。また，日中近代文学交流史，日本プロレタリア文学の研究者でもあり，「日本近代文学翻論在中国」（中国に於ける日本近代文学の翻訳）（「遼寧大学々報」1981）「略論日本早期無産階級文学」（日本初期プロレタリア文学について）（同上，1978）他の研究論文がある。当日の講演会には教官学生を中心に70名余の聴講があり，盛況であった。

◇ 教養部

お願い …… 中国に本を贈ること ……

教養部（自然教棟）地学研究室　藤　井　昭　二

私は生まれて昭和22年に引揚げてくるまで大連市で育ちました。

最近の中国については1983年，84年の両年合わせて約30日，青島・上海・大連・北京を見たにすぎません。

私の知りえた中国は通訳を通し，あるいは日本語を話す中国人を通してです。1983年水名修氏の大連滞在記が毎月一回北日本新聞にでているのを興味深くよみ，清岡卓行の著作なども読んでいます。

1984年，青島の海洋研究所での講義のお礼に中国内好きな所を案内してくれるというので，ためらうことなく大連の訪問を希望致しました。

大連についた次の日大連外国語学院に日語系主任の周伝芝先生を訪ねました。この大学は北京第二外国語学院，吉林大学外国語系とともに日本語教育の重点校であり，正規の日本語学生の他に，日本で研修のきまった400人に毎年日本語と日本事情の事前教育をしており，一度に400冊の教科書を揃えるのが大変だとのことでした。これまでにも少しずつ本を贈っていたので，どんな風に利用されているかみたかったが，夏休みで学内は工事中でみることはできませんでした。

何かお役にたてることはないか，本を送るならどんな本がよいかと尋ねましたところ，エロ・グロは困るが，その他は何でもよく，推理小説・恋愛小説・外国の翻訳等もほしいとのことでした。

青島でせわになった通訳の管さんは吉林大学，北京でせわになった笵さんは北京第二外国語学院，上海の郁さんは北京大学の卒業だとのことでした。郁さんを除いて卒業して1・2年しかたっていないが流暢な日本語を話していました。

大連医学院で講演した時，通訳してくれた遼寧師範大学の邢文啓先生は学徒出陣の時の東京商大の卒業生で，彼の教え子があっちこっちにいて，夫々日本語で説明してくれました。青島でも，ラジオで日本語の独習をしているという何人かにあいました。

大学を卒業した人の月給が50～60元，日本円で5,000円か6,000円です。私が昭和29年大学を卒業した時の月給が9,000円でした。当時ドル360円，ポンド1,000円。生活で一杯で，数ドルする本を個人で買うことは殆どできなかった。地質学雑誌の論文の別刷が2,000円で，論文一つかくのにお金がかかるのに驚きました。丁度昭和20年代の終りの物価が現在の中国の物価でなかろうか。

5,000円から6,000円で生活する中国人に2,000円前後する日本の本を買うことができるだろうか？切

角自発的に日本語を勉強している人達に何かお手伝できないかというのが私の考えです。

仕事のきりがついた時や，休みに気分転換に本を読み，気をゆるすと，そのような本が本棚にあふれてしまう。本をすてるということを知らないので，本はいつのまにかどんどんふえる，それらが日本語を勉強する人の何かの足しになるなら幸なことです。

私は小学校と中学校の同級生に，大連の現状を書き，中国に本を贈ることをお願いした。姉等が熱心に本を集めてくれ，少しづつ送りはじめたものの，10 kg：5,000円の船賃は一冊100円前後になり，送料の馬鹿にならないことに気がつき，気長に自分の小遣の範囲でやっていこうときめてました。そこに朝日新聞の記者が手伝しましょうと地方版と全国版の夕刊に記事にして下さった。さすがに全国紙で2週間，電話と宅送便の整理で追われた。しかし，2トン近くの本をどうやって中国に送るかあらたな問題がおこった。毎月10 kgおくって200ヶ月，100万円は私の小遣にしては過大にすぎた。思案の余り5月7日の大連行の直行便にたのんだが，もう満杯ということで断わられ，日中友好協会の方で秋になったら送ってくれることになり胸をなでおろした。別に伏木港の港長をした友人の奥村さんが伏木海陸の社長に相談し，大連行のタンカーを見つけてくれ，それが4月23日出港するので21日中に積み込みをせよということになり，また大さわぎして，準備し，あげく，ダンボール68箱を岩瀬からはしけで10分の日本郵船の丹後丸に積込むことができた。私の発想にないことだが，朝日の記者もあつまりすぎた本に責任を感じて，本の発送を22日の地方版に会社名や船名をいれて記事にして下さった。夫々お礼に訪ねたのは勿論であるが，100万円かかる送料が記事のお陰でお礼ですむことになった。しかし，中国との連絡が非常に悪く，5月7日に丹後丸が富山に入港するまで，本がうまく中国についたか気が気でなかった。今まで10kg位送る分には税関も問題ないが，2トンも一度に送ったことがなく，石油専用の大連外港に野積にされ，税関でひっかかり，雨にうたれるようになったら，贈って下さった人の善意がどうなるのだろうという心配があった。船と電話連絡がとれ，学長が船まできて受理し，大連の案内をしてくれたと聞いて漸やく安堵しました。毒くわば皿まで，KNB でも地方と全国放送で，地元紙も記事にして下さり，毎日段ボール一個位づつ現在でも届いています。

送本者の8割近くが女性です。好意を残すため，名前と本のリストを作ってます。リストを作りながら，送本者が美しい人に違いないと想像しています。

もし，ご用すみで，寄贈してよい本がありましたら，藤井の研究室まで届けて下さると幸いです。

学生部だより

＊　来春卒業予定の皆さんへ

学生部長　本　田　　弘

皆さんは，卒業後の進路について，いろいろ検討されていることと思いますが，すでに御承知のように，就職のための選考開始時期等については，大学・高等専門学校関係11団体と中央雇用対策協議会の双方において，次のような内容の申し合わせが行われております。

①　求人（求職）のための企業と学生の接触開始は卒業前年の10月1日。

②　選考開始は卒業前年の11月1日。

これらの申し合わせは，学校教育を適正に実施し，学生の就職の機会均等・公平性を確保すると云う観点から定められたものです。

皆さんも，この趣旨を十分に理解されて就職協定遵守のため御協力をお願いします。

◇　第 37 回北陸地区国立大学体育大会は、北陸地区国立大学体育連盟及び福井大学の主催で7月 14 日（日）を中心に別記会場で開催されます。

競　技　日　程

種目		期日	開始時間	競技会場	出場選手数	競技方法及び小種目
陸上競技	男・女	7月14日	10：00	福井県営 陸上競技場	(1) 1種目2名以内（リレーを除く）ただし1名のオープン参加を認める (2) 1人の出場種目は3種目以内とする（リレーを除く）	男子（トラック）100m，200m，400m，800m 1,500m，5,000m，110mH 400mH，3.000mSC，400mR 1,600mR （フィールド）走巾跳，三段跳，走高跳，棒高跳 円盤投，砲丸　投槍投，ハンマー投 女子（トラック）100m，200m，400m，800m 100mH，400mR （フィールド）走巾跳．走高跳，円盤投，砲丸投 槍投
野球	男	7月14日 （雨天の場合 15日に延期）	9：00	福井県営野球場	25名以内	リーグ戦
庭球	男・女	7月12・13日 7月14日 （雨天の場合 15日迄順延）	9：00 開会式 終了後	福井大学 屋外球技コート	男子15名以内 女子 7名以内	団体（トーナメント戦）男子　4複7単 （トーナメント戦）女子　2複3単
軟式庭球	〃	7月14日 （雨天の場合 15日に延期）	9：00	武生市 中央公園庭球場	男子30名以内 女子20名以内	団体（点取りリーグ）｛男子5チーム9セット 女3チーム9セット 個人（トーナメント）｛男子15チーム以内9セット 女子10チーム以内9セット
卓球	〃	7月14日	10：00	北陸電力体育館	男子20名以内 女子12　名以内	団体（リーグ戦）｛男子4複7単 女2複5単 個人（トーナメント・シングルスのみ）｛男子2　名以内 女子1　名以内
バドミントン	〃	7月12日 7月13日 7月14日	11：00 9：00 開会式 終了後	鯖江市総合体育館 福井大学体育館	男子 16名以内 女子 10名以内	団体（点取りリーグ）｛男子3複4単 女子2複3単 個人（トーナメント）｛シングルス男子　12名以内 〃　女子　10名以内 ダブルス男子　6組以内 〃　女子　5組以内
バレーボール	〃	7月14日	10：00	福井工業高等専門学校体育館	男女共 12名以内	男子トーナメント戦 女子リーグ戦
サッカー	男	6月23日 6月30日 7月14日	11：00 }13：00	福井大学グラウンド	20名以内	トーナメント戦
ラグビーフットボール	〃	6月23日 6月30日 7月　7日	}13：00 11：00	福井医科大学グラウンド	25名以内	トーナメント戦　3位決定戦（35－5－35）
剣道	男・女	7月14日	9：00	福井大学 附属中学校体育館	男子25名以内 女子12名以内	団体（点取りリーグ）｛男子13名以内（登録は15名以内） 女子 5名以内（〃　7名以内） 個人（トーナメント）｛男 10名以内 女子 5名以内
柔道	男	6月30日	9：00	武生市武道館	17名以内	団体（点取りトーナメント）3位決定戦 個人（トーナメント）4名以内
バスケットボール	男・女	7月14日	10：00	三国町民体育館	男女共 20名以内	トーナメント戦　3位決定戦
水泳	〃	7月　7日	10：00	福井大学プール	(1) 1種目3名以内 (2) 1人の出場種目は3種目以内（リレーを除く）	男子 自由形　100m，200m，400m，800m， 背泳　100m，200m 平泳　100m，200m バタフライ　100m，200m メドレーリレー　400m リレー　200m，800m 個人メドレー　200m 女子 自由形　100m，200m，400m 背泳　100m，200m 平泳　100m，200m バタフライ　50m，100m メドレーリレー　400m リレー　200m，400m 個人メドレー　200m

種目		期日	開始時間	競技会場	出場選手数	競技方法及び小種目
ヨット	男・女	7月13日 7月14日	9:00	三国ヨットハーバー	20名以内	総合と種目別　（スナイプ，470級） スナイプ級2艇制， 470級2艇制
準硬式野球	男	7月13日 7月14日 （雨天の場合 15日まで 順延）	13:00 9:00	福井医科大学 野球場	25名以内	トーナメント戦　3位決定戦
ハンドボール	〃	7月　7日	10:00	福井県立 羽水高校体育館	15名以内	トーナメント戦　3位決定戦
空手道	〃	7月14日	10:00	福井大学 附属小学校体育館	20名以内	団体　自由組手（5組）リーグ戦 各試合2分3本勝負 個人　自由組手トーナメント戦 各校4名以内2分3本勝負 （引分けの時2分延長後判定）
弓道	男・女	7月13日 7月14日	9:00 開会式 終了後	福井大学弓道場	男子　14名以内 女子　6名以内	団体　男子8名（1人20射計160射）　四ツ矢五回 女子4名（1人20射計　80射） 個人　団体戦出場者及び男女8名 （20射中的中数の多い者）
体操	〃	7月14日	10:00	鯖江市立待体育館	男子 20名以内 女子 10名以内	男子 床運動・鞍馬・平行棒・吊輪・跳馬・鉄棒 女子 床運動・段違い平行棒・平均台・跳馬
自動車	〃	7月14日	7:00	新田塚自動車学校	団体　各種目2名 個人　各種目出場者2名以内	フイギアレース　(1) 軽四輪（550cc以下） (2) 小型トラック（ナンバーキャブオーバータイプ） (3) 小型乗用車 (4) 普通乗用車
創作舞踊	男・女	7月13日	14:00	福井県民会館		公開演技
少林寺拳法	〃	7月13日	13:00	福井大学第1体育館		公開演武（団体演武・組演武・個人乱捕リーグ戦）
合気道	〃	7月13日	13:00	福井大学第2体育館		公開演武（組演武）
アメリカンフットボール	男	7月　7日	13:00	福井大学グラウンド		金沢大学と福井大学のエキジビジョン

◆ 昭和60年度富山大学都道府県別入学者数調

昭和60年5月1日現在

	人文	教育	経済	理	工	計（%）
北海道	1		3	1	2	7（ 0.6）
青森						
岩手						
宮城					1	1（ 0.1）
秋田	1					1（ 0.1）
山形	2		1			3（ 0.2）
福島				2		2（ 0.2）
茨城			1	1		2（ 0.2）
栃木	2			3	1	6（ 0.5）
群馬	1		1	1		3（ 0.2）
埼玉	1			2	1	4（ 0.3）
千葉		1		1		2（ 0.2）
東京	2		1		1	4（ 0.3）
神奈川				1	1	2（ 0.2）
新潟	5		1	7	5	18（ 1.5）
富山	95	197	175	74	140	681（ 56.9）
石川	36	32	50	22	50	190（ 15.9）
福井	2	3	14	9	4	32（ 2.7）
山梨	1			3	1	5（ 0.4）
長野	1	1	2	4		8（ 0.7）
岐阜	5	3	15	8	21	52（ 4.3）
静岡	3		2	3	1	9（ 0.7）
愛知	6		12	14	51	83（ 6.9）
三重	1		4	6	3	14（ 1.2）
滋賀	1	2	1	5	5	14（ 1.2）
京都		1		3	3	7（ 0.6）
大阪	2		7	6	6	21（ 1.8）
兵庫	1		2	2	6	11（ 0.9）
奈追			1		2	3（ 0.2）
和歌山			2	1		3（ 0.2）
鳥取			1			1（ 0.1）
島根						
岡山			1	1		2（ 0.2）
広島			1			1（ 0.1）
山口	1		1			2（ 0.2）
徳島						
香川						
愛媛						
高知						
福岡						
佐賀						
長崎			1			1（ 0.1）
熊本						
大分				1		1（ 0.1）
宮崎						
鹿児島						
沖縄						
計	170	240	300	181	305	1,196（100.0）

◆ 昭和59年度卒業生進路（就職）状況

昭和６０年５月１日現在

学部	学科課程 ＼ 項目 性別	卒業者数		就職希望者数		就職不希望者数		就職者数		未就職者数		就職率(%)	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人文学部	人文学科	39	36	28	34	11	2	26	32	2	2	92.9	94.1
	語学文学科	35	49	32	45	3	4	28	43	4	2	87.5	95.6
	計	74	85	60	79	14	6	54	75	6	4	90.0	94.9
教育学部	小学校教員養成課程	33	113	33	111		2	32	88	1	23	97.0	79.3
	中学校教員養成課程	34	22	31	20	3	2	28	19	3	1	90.3	95.0
	養護学校教員養成課程	1	18	1	16		2		15	1	1	0	93.8
	幼稚園教員養成課程	1	30	1	30			1	24		6	100	80.0
	計	69	183	66	177	3	6	61	146	5	31	92.4	82.5
経済学部	経済学科	115	8	114	8	1		113	8	1		99.1	100
	経営学科	92	14	92	13		1	92	13			100	100
	経営法学科	41	5	39	5	2		38	3	1	2	97.4	60.0
	計	248	27	245	26	3	1	243	24	2	2	99.2	92.3
理学部	数学科	24	6	21	5	3	1	17	5	4		81.0	100
	物理学科	31	3	21	3	10		16	3	5		76.2	100
	化学科	15	12	13	12	2		13	12			100	100
	生物学科	18	8	14	8	4		8	5	6	3	57.1	62.5
	地球科学科	20	2	15	1	5	1	14	1	1		93.3	100
	計	108	31	84	29	24	2	68	26	16	3	81.0	89.7
工学部	電気工学科	48		42		6		42				100	
	工業化学科	37	4	31	3	6	1	31	3			100	100
	金属工学科	40	2	29	1	11	1	29	1			100	100
	機械工学科	32		25		7		25				100	
	生産機械工学科	30		28		2		28				100	
	化学工学科	43	4	34	4	9		34	4			100	100
	電子工学科	35		21		14		21				100	
	計	265	10	210	8	55	2	210	8			100	
合計		764	336	665	319	99	17	636	279	29	40	95.6	87.5

◈ 昭和59年度卒業生産業別就職状況

昭和60年5月1日現在

産業別 ＼ 学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
農業							
林業							
漁業・水産養殖業							
鉱業							
建設業		1	2	4		2	9
製造業	食料品	3		6		1	10
	繊維		1	1		2	4
	印刷	9	3			4	16
	化学工業	2	1	9	16	14	42
	石油・石炭製品						
	鉄鋼			1		3	4
	非鉄金属	4		1			5
	金属製品			3			3
	一般機械器具	2		6	3	30	41
	電気機械器具			14	8	60	82
	輸送用機械器具	4		2		19	25
	精密機械器具		3	1	3	7	14
	その他	2	5	14	2	42	65
	小計	26	13	58	32	182	311
卸売小売	商事・貿易	5		21		5	31
	百貨店・スーパー	15	4	26	3		48
	小計	20	4	47	3	5	79
金融保険	銀行	3		12	1		16
	信用金庫・信用組合	1		21			22
	保険業			17			17
	証券・商品取引	1		16			17
	小計	5		66	1		72

産業別 ＼ 学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
不動産業							
運輸・倉庫業			1	12		5	18
電気・ガス・水道		1		2		2	5
マスコミ	新聞・出版	2					2
	ラジオ・テレビ	1					1
	小計	3					3
サービス	広告・観光業	9					9
	医療保健業						
	非営利的団体		2	1			3
	公共企業体等						
	小計	9	2	1			12
教育		35	172	4	32	2	245
公務	国家公務員	3	1	12	3	2	21
	地方公務員	9	5	28	1	1	44
	小計	12	6	40	4	3	65
上記以外のもの		17	7	33	22	17	96
合計		129	207	267	94	218	915

規模別就職先	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
大企業（従業員数300人以上）	43	6	154	27	172	402
中企業（従業員数30～299人）	32	11	53	23	39	158
小企業（従業員数29人以下）	7	7	8	7	1	30
企業以外	47	183	52	37	6	590

第２大学食堂について

学生・教職員の福利厚生施設として，工学部敷地に第２大学食堂が４月から全面的に営業を始めました。

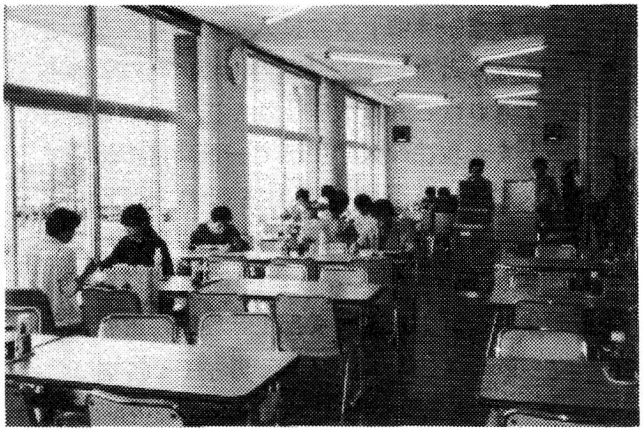
１階には，メニューも豊富で各自のし好に合わせ，自由に選んで食事が楽しめるカフェテリア方式を採用した食堂と食品の販売部があり，２階には，学生・教職員の憩いの場として喫茶・軽食，談らんの場として談話コーナと購売・書籍部が設置されています。

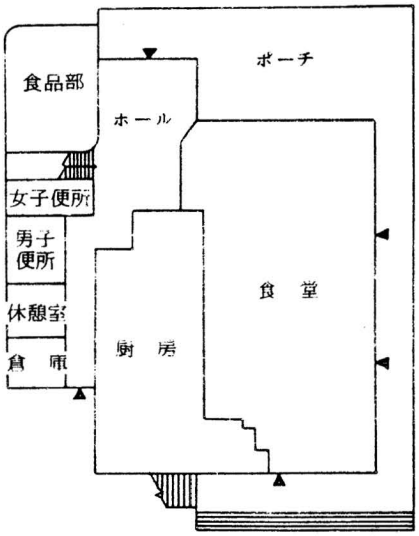
１階の食堂，食品部，２階の購売・書籍部は富山大学生活協同組合が営業しており，２階の喫茶，軽食は財団法人学校福祉協会に委託しております。

営業時間等は次のとおりです。

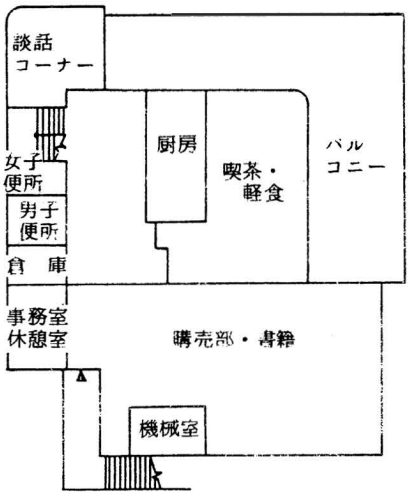
営　業　時　間

区　分	座席数	営　業　時　間
食　堂	166	平日９：００ ～ １３：３０　１４：２５ ～ １６：００ 土曜９：００ ～ １３：３０
食　品　部		平日８：３０ ～ １３：２０　１４：０５ ～ １７：３０ 土曜８：３０ ～ １３：２０　１３：５０ ～ １５：００
喫茶・軽食	32	平日８：００ ～ １９：００ 土曜８：００ ～ １４：００
購売・書籍部		平日８：４０ ～ １３：２０　１４：０５ ～ １７：１０ 土曜８：４０ ～ １３：３０　１３：５０ ～ １５：００





１階平面図



２階平面図

建物延面積　914 m^2

保健管理センターだより

カウンセラー　高　尾　テルノ

・先生！　みんな何を考えているんでしょう。学問をするために大学に来ているのに，あの車の多いこと～　。一体遊びに来ているんですか。僕は幻滅を感じました。

・私は，以前から将来を考えてＡ学部を志望していたのに，高校の担任教師が共通一次試験の結果からＢ学部に受験するように勧められた。入学後，もし否だったら転部するように言われたので，直ぐＡ学部に転部したいので，その手続きは，どのようにすればよいのでしょうか。

・他大学へ受験したいのですが～　。

・一浪しているので他大学へ受験し直すとまた遅れるので編入したいのですが～　。

など，入学式を終えた4月末から新入生の来談が数を増してくる。

学生らは，どんなことを考慮に入れて大学を選び，大学の入学が決まった頃「大学に入ったらどんなことができ，どんなことをしょう」と考えていたのであろうか。現在できればどんな大学生活を送りたいと思っているのか。また現在の大学生活で一番満足に感じていること，反対に一番不満を感じていることはなんであろうか。59年度の生活意識調査の結果から１～２紹介してみょうと思います。

・調査対象者　富山大学教養部生，専門学部生

・人　　数　全体（630名）　男子（265名）
女子（365名）（１年302名，２年146名，３年182名，４年僅少のため省く）

・調査方法　質問紙法

1.　あなたは，特にどんなことを考慮に入れてこの大学を選びましたか。（２つ選ぶ）

項目1.　学業（テスト）の成績
2.　ただなんとなく入れる圏内にいたから（共通一次を含む）
3.　通学の便とか経済的面から
4.　将来の職業（就職）のことを考えて
5.　自分の性格，適性など
6.　先生の勧め
7.　親の勧め
8.　特技：クラブ活動など
9.　友人，兄，姉が入ったから

表1.　大学の選定理由　（％）　（複数）

項目 / 性・学年別	1	2	3	4	5	6	7	8	9
全　体	51.1	40.3	43.2	34.5	10.8	8.6	9.1	1.9	0.5
男	58.1	51.7	35.1	27.1	13.9	9.4	2.3	1.5	0.9
女	46.0	32.1	49.1	39.8	8.5	7.9	14.0	2.1	0.5
1	53.3	50.3	42.1	28.1	8.3	9.6	6.3	1.0	1.0
2	52.7	41.1	43.9	15.1	19.2	10.2	11.6	5.5	0.7
3	46.7	22.8	45.0	60.6	7.8	5.5	11.1	0.5	0.0

2.　大学の入学が決まった頃，あなたは「大学に入ったらどんなことができる」と思っていましたか。あるいは「どんなことをしょう」と考えていましたか。（２つ選ぶ）

項目

1.　のびのびと好きなことをやってみたい。
2.　クラブ活動やスポーツに時間をかけたい。
3.　教科書以外に教養面の本を読み自己を高めたい。
4.　もっと世間や実社会について知りたい。
5.　友人と人生などについて考え話し合ってみたい。
6.　教官と自由に論議したり人格に触れたりしたい。
7.　特に何も考えなかった。
8.　その他

表2.　入学が決まった頃（％）（複数）

項目 / 性・学年別	1	2	3	4	5	6	7	8
全　体	77.8	27.2	33.4	24.3	15.8	9.0	7.0	5.5
男	77.3	31.0	22.6	28.7	14.4	7.5	9.1	9.4
女	78.1	24.3	41.1	21.1	17.0	10.2	5.5	2.7
1	85.1	32.8	21.3	26.2	12.2	5.6	8.2	8.6
2	73.3	17.8	53.5	17.8	14.4	13.1	6.8	3.3
3	68.9	25.5	37.8	25.6	23.4	11.7	5.0	2.1

3.　あなたは現在の大学生活にどの程度満足していますか。（１つ選ぶ）

項目

1.　割合充実した大学生活を送っている。

2. こんなものだろうと思って大学生活を送っている。
3. なんのために大学にいるのかわからない，不満だ。
4. 大学をやめようと思っている，大学生活は意味がない。
5. そういうことは考えたことがない。

表3. 大学生活の満足度（%）

性・学年別＼項目	1	2	3	4	5
全　体	20.5	60.8	14.1	1.6	3.0
男	16.6	58.2	17.7	2.6	4.9
女	23.3	62.7	11.5	0.9	1.6
1	13.9	61.3	17.2	3.0	4.6
2	20.5	60.3	17.1	0.7	1.4
3	31.7	60.0	6.7	0.0	1.6

4. あなたは，現在できればどんな大学生活を送りたいと思っていますか。（1つ選ぶ）

項目

1. 広く教養や知識を身につけたい。
2. 人生，社会，思想や自己についてもっと研究したい。
3. 将来のための学力をつけたい。
4. クラブ，特技などもっとやりたい。
5. そういうことは考えたことがない。
6. その他

表4. 大学生活への望み（%）

性・学年別＼項目	1	2	3	4	5	6
全　体	41.3	17.1	14.0	12.4	8.9	6.3
男	35.8	15.5	12.5	15.5	12.8	7.9
女	45.2	18.4	15.1	10.1	6.0	5.2
1	39.4	11.9	10.3	16.9	13.9	7.6
2	43.8	19.9	16.4	8.9	5.5	5.5
3	42.2	23.9	18.3	7.8	2.8	5.0

5. 現在の大学生活で，あなたが一番満足に感じていることはどんなことですか。また一番不満に感じていることはどんなことですか。自由に書いてください。（筆者が各項目にまとめた）

(ア) 現在の大学生活の満足内容

項目

1. 自由があり，時間的に余裕がある。
2. 友人関係，対人関係で。
3. 好きな分野の勉強，研究ができる。
4. サークル活動に。
5. 生活が楽しく充実している。
6. 経済面（アルバイトができる）
7. その他

表5. 満足内容（%）

性・学年別＼項目	1	2	3	4	5	6	7
全　体	36.0	24.8	13.0	8.9	6.0	2.9	8.4
男	43.0	16.5	10.5	8.0	4.0	5.5	12.5
女	31.0	30.6	14.8	9.5	7.4	1.1	5.6
1	45.7	20.5	6.4	8.2	5.0	5.0	9.2
2	25.2	31.1	18.5	6.7	6.7	2.5	9.3
3	29.7	26.2	18.6	11.7	6.9	0.0	6.9

(イ) 現在の大学生活での不満内容

項目

1. 授業内容
2. 自分の生活態度に。
3. 単位制度について。
4. 時間的に余裕がない。
5. 目的，目標がない。
6. 大学の施設，設備が悪い。（狭い）
7. 活気がなく，大学の雰囲気が悪い。
8. 教養課程（必要なし）
9. その他

表6. 不満内容（%）

性・学年別＼項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
全　体	21.0	12.7	11.1	8.9	5.9	6.5	5.1	3.4	25.4
男	20.5	13.0	12.6	6.0	3.7	7.9	5.1	3.3	27.9
女	21.4	12.5	10.0	11.1	7.5	5.4	5.0	3.6	23.5
1	21.4	3.4	13.7	3.8	11.1	6.0	6.0	6.4	28.2
2	20.5	11.1	6.0	13.7	8.5	6.8	6.8	1.7	24.9
3	20.4	16.9	11.3	13.4	7.7	6.3	2.1	0.7	21.2

****** 学園ニュース編集委員 ******

学生部長	本田 弘		理学部	松本賢一
人文学部	山口幸祐		〃	広岡公夫
〃	服部良久		工学部	多々静夫
教育学部	佐々木浩		〃	杉本益規
〃	山本都久		教養部	高安和子
経済学部	正亀芳造		〃	山本孝一
〃	中藤康俊			